

<野外巡検> 2017年10月8日(日)

川西町の歴史と産業

(案内者:小松原 尚、稲垣 稔)

集合: 13時00分 結崎駅(近鉄樞原線)

巡検コース: 下図参照

地形図: 2万5千分の1「大和郡山」「桜井」

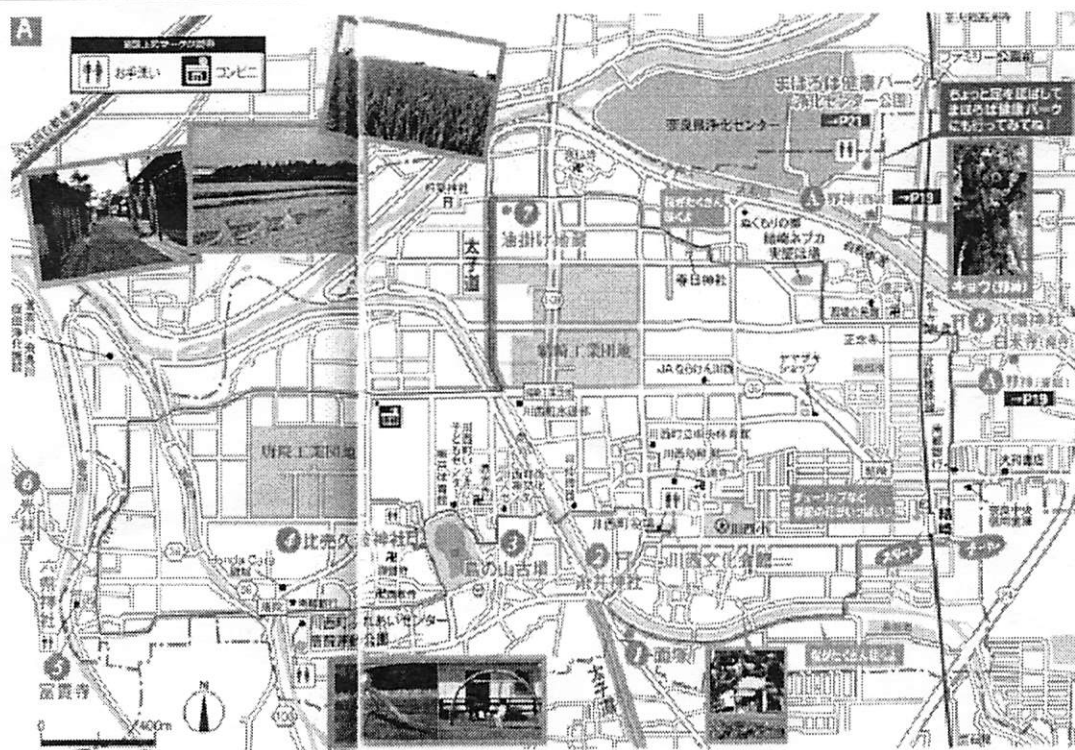
費用: 自宅から集合・解散地点までの交通費。

申し込み: 事前申し込みは不要です。集合場所へ直接お越しください。

備考: 雨天決行。

問合せ先:小松原 尚(奈良県立大)630-8258 奈良市舟橋町10 Tel 0742-22-4978 内線303

E-mail: hisashik@napapu.ac.jp



磯城郡川西町・三宅町・田原本町共同編集「磯城の里ウォークパンフレット」より引用。

地図は2015年8月現在。

- ①面塚…寺川のほとり。猿楽「結崎座」の拠点。その座の代表役者(大夫)を務めた観阿弥の居住地。
- ②糸井神社…約千年前の法令集(延喜式、967年施行)にも記載。拝殿内に数多くの絵馬。
- ③島の山古墳…全長200m。大和政権発展の4世紀末から5世紀に築造。1996年の発掘調査で、石製腕輪、玉類、銅鏡が多数発見。
- ④比売久波(ひめくわ)神社…本殿は春日大社摂社若宮神社から移築。境内に島の山古墳石室で使用の石材あり。
- ⑤富貴寺・六県(むつがた)神社…9世紀後半に創建との伝承。本堂は15世紀後半の寄棟。
- ⑥光林寺…1313年空信上人開創、1542年より現在地に。
- ⑦油掛け地蔵…1523年造立。「できもの」治療、燃灯供養
- ⑧八幡(はちまん)神社…熊野神社と愛宕神社を境内社。石灯笼は19世紀前半のもの。白米寺仏像の収蔵庫あり。

[巡検の趣旨]

奈良を対象にした地域研究、中でも地理学における研究の蓄積は少なくない。その中に奈良地理学会の研究活動も数多く位置付けられている。このような問題意識から、内田忠賢・奈良女子大学教授は人文地理学の視点から奈良県の地理学研究の系譜を辿る研究会を開催した(2016年7月31日)。講師は長年にわたり大学での講義や学会活動を通じて本件に取り組んでこられた、戸祭由美夫・奈良女子大学名誉教授がお引受けになられた。そのご講演で戸祭名誉教授は奈良地理学会の活動を会報などの活字資料をもとに跡付けられた。そうしたご講演にふれて筆者が感じたのは、このような研究の蓄積を学界全体で共有化することはもちろんのこと、その成果を学生や市民に還元していくことの重要性である。

巡検は会員相互の研究成果や問題意識・関心の交流の場であることは言うまでもない。さらに先の観点から考えると奈良地理学会が学生のために学外実習の機会を提供する場としての位置づけも含まれるのである。なぜなら地理学は学校教育と共にある存在でもあるからである。そして、複数の大学の学生が参加されれば、学生諸君にとっては学びを通じた学生間の交流の機会になるし、会員各位からも様々な知見を賜れる絶好の機会になるはずだ。このような考えから、会報の巡検記事に関しても、学会の人的資源の有効活用をはかるべく、原稿執筆は巡検担当幹事で分担しての作成をお願いした。学生たちのための学習資料として活用されれば学会の社会貢献にもつながるのである。

地域への関心喚起を目的として、市町村など自治体では、フットマップを発行しているところが増えており、それを巡検に活用しようということも今回の試みの一つである。川西、三宅、田原本の3町で作成した「磯城の里ウォーキングマップ」を念頭に置いての活動となる。今回の巡検では、半日(午後)で川西町を地図を使って回ってみる。フットマップは町内の歴史遺産を巡るコース設定であるが、町内に2つの工業団地を擁し、それぞれ大日本印刷と東洋シャッターなどが立地しており、産業景観観察の観点からも興味深い。

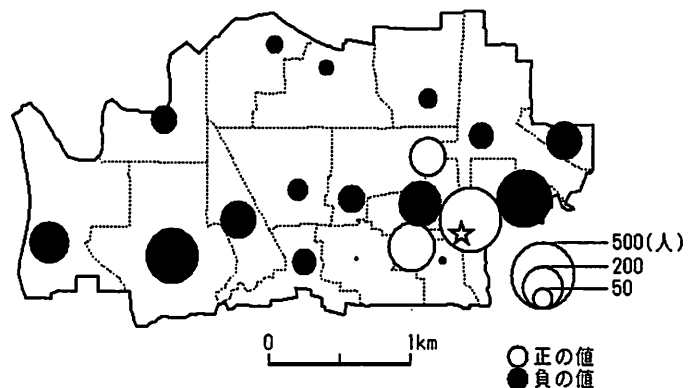
今回の巡検の資料の作成にあたっては、学会巡検担当幹事の先生方にご協力いただいた。学会や校務に多忙な中で原稿のご執筆の労を賜った。記して感謝申し上げる。(小松原尚)

◆内容構成と執筆者(敬称略)

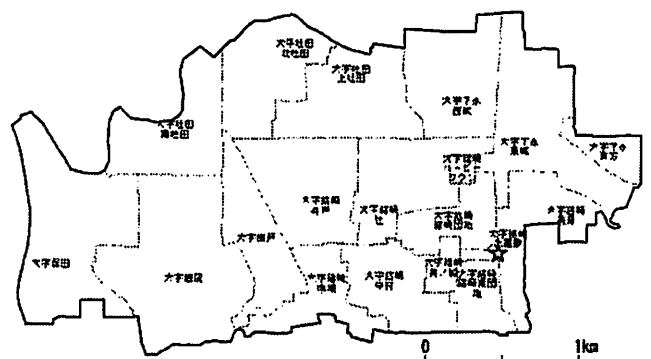
- 1 小地域統計にみる川西町 酒井高正
- 2 明治前期の川西町 川口洋
- 3 学校統廃合 戸井田克己
- 4 産業立地 稲垣稜
- 5 住宅地開発 稲垣稜

[小地域統計にみる川西町]

国勢調査の小地域集計は2000～2015年のものがe-Stat(政府統計の総合窓口)にて公開されている。川西町における小地域の設定は、結崎、下永、吐田、梅戸、唐院、保田の6つの大字から成り、さらに大字結崎は10の地区(ハッピータウンについては辻の区域を分割するかたちで2010年から設定された)、大字下永と大字吐田はいずれも3つの地区に分割されている。



2000～2015年の人口増減(国勢調査データより作成)
☆: 結崎駅



国勢調査小地域名 ☆: 結崎駅

川西町小地域別人口データ

大字・地区名	人口2000	人口2015	増加数 2000-15	15歳未満比 率	15~64歳比 率	65歳以上比 率	農林漁業就 業者世帯比 率*	非農林漁業 就業者世帯 比率	非就業者世 帯比率
	人	人	%	%	%	%	%	%	%
	2000年	2015年	2000~15年	2015年	2015年	2015年	2010年	2010年	2010年
大字結崎中村	684	683	-1	16.3	57.1	26.5	3.0	66.5	30.4
大字結崎美ノ城	323	589	266	23.4	65.4	11.0	0.0	78.1	19.1
大字結崎市場	279	208	-71	7.2	58.2	34.6	1.3	65.0	30.0
大字結崎辻	464	398	-66	9.3	60.6	29.9	7.5	73.1	18.7
大字結崎井戸	348	297	-51	12.8	57.2	30.0	1.0	65.7	32.4
大字結崎出屋敷	939	1,418	479	15.9	66.1	17.8	0.8	73.4	24.3
大字結崎美幸	465	105	-360	9.5	53.3	37.1	0.0	81.6	18.4
大字結崎結崎団地	1,572	1,338	-234	10.5	46.6	42.8	0.7	61.5	36.7
大字結崎結崎南団地	373	369	-4	9.8	56.4	33.9	0.7	66.9	31.7
大字結崎ハッピータウン	0	176	176	29.0	61.9	9.1	1.9	98.1	0.0
大字下永	1,034	781	-253	7.2	57.1	35.7	3.7	53.9	41.1
大字下永東城	370	300	-70	7.7	54.7	37.7	5.7	60.4	32.1
大字下永西城	180	146	-34	8.9	59.6	31.5	13.6	61.4	25.0
大字下永東方	484	335	-149	6.0	58.2	35.8	0.0	48.0	50.9
大字吐田	610	482	-128	7.3	54.1	38.6	9.6	62.9	26.3
大字吐田上吐田	201	179	-22	4.5	56.4	39.1	8.6	63.8	24.1
大字吐田北吐田	144	115	-29	8.7	53.0	38.3	9.5	54.8	35.7
大字吐田南吐田	265	188	-77	9.0	52.7	38.3	10.4	67.2	22.4
大字梅戸	612	455	-157	10.3	56.9	32.5	0.0	64.4	35.1
大字唐院	1,096	762	-334	7.7	53.9	38.3	1.2	66.9	31.0
大字保田	623	434	-189	9.2	50.5	40.3	2.5	71.8	25.2

*：農林業就業者と非農林業就業者の混合世帯を含む

(国勢調査により作成)

町域全体では 2000 年頃以降は人口減少傾向だが、2000~2015 年の人口増減を小地域単位で見ると、大字結崎の結崎駅に比較的近い3地区でのみ増加がみられた。479 人増加の出屋敷地区は 15 年間の増加率は 51%、266 人増加の美ノ城地区は 82% 増、ハッピータウンの 176 人はもとはゼロと、いずれも著しい増加である。減少幅の著しいのは、大字結崎の美幸地区(-360 人)と結崎団地地区(-234 人)、大字唐院(-334 人)、大字保田(-189 人)などである。

1970 年代以降に住宅地開発が進んだ川西町であるが、開発時期が前半となる結崎団地地区と美幸地区では現在は人口減少が著しく、高齢者比率が 4 割前後まで上昇している。なお、美幸地区が 4 分の 1 以下に減少(-77%)しているのは京奈和自動車道建設による立ち退きの影響も考えられる。上述のように人口増加の著しい出屋敷地区と美ノ城地区は結崎駅に近く開発が継続しており、ハッピータウンは最近の新規開発地区であり、いずれも、高い年少者比率と低い高齢者比率から、若いニュータウンとしての特徴を見せている。

一方の人口減少数の大きい唐院、保田のほか、下永、吐田、梅戸の各大字は、ほとんどが 2~3 割前

後の減少を示しており、農村型の人口減少地域と考えられ、高齢者比率も 3~4 割を示す地区が多い。そうした中で世帯就業状況を見ると、高齢者比率が高くても農林漁業就業者が比較的多めの地区では非就業者世帯が少ない一方、唐院や保田のように高齢者比率が高く農林漁業就業者が少なめでも非就業者世帯率が低い地区がみられる。別途、2014 年経済センサス基礎調査の小地域統計で事業所数のデータを見ると、唐院と保田では、製造業の事業所および従業者 1~4 人の事業所に一定数の集積がみられ、地場産業である貝ボタン製造が高齢者の雇用確保につながっていることが推察される。

以上のように、小地域統計を利用することにより、住宅地域でも開発の時期により、また農村地域でも地場産業の有無により、人口動向に違いが生じることを見てとることができるようである。

(酒井高正)

[明治前期の川西町]

『旧高旧領取調帳』によれば、川西町域に相当する式下郡市場村、中村、井戸村、辻村、南下永村、下永村、吐田(はんだ)村、梅戸村、唐院村、保田村、合計 6,777 石は、維新时期まで大和郡山藩領であつ

た。

1872(明治5)年に大区小区制が導入されると、川西町域は、奈良県第6大区第1小区(市場村、中村、井戸村、辻村、梅戸村、南下永村、下永村)と第6大区第2小区(吐田村、唐院村、保田村)に編成された。翌1873年11月には、奈良県第3大区第4小区(南下永村、下永村、吐田村)と第3大区第5小区(市場村、中村、井戸村、辻村、梅戸村、唐院村、保田村)に改編された。1876(明治9)年、奈良県は堺県に合併され、現在の川西町域は、広瀬郡と平群郡の一部の村々と共に堺県第2大区第3小区に再編された。1878(明治11)年、郡区町村編成法にもとづいて、大区小区制が廃止された。

1877年、市場村、中村、井戸村、辻村が合併して結崎村が、1879年には南下永村と下永村が合併して下永村が誕生した。1881年、堺県は大阪府に合併され、ついで1887(明治20)年、奈良県が設置された。町村制の施行により、1889年、結崎村、下永村、吐田村、梅戸村、唐院村、保田村が合併して、奈良県式下郡川西村が生まれた。1897(明治30)年の郡制の施行により、式上郡、式下郡、十市郡が合併して、磯城郡となった。

内務省総務局戸籍課が編集した『明治十九年十

1880年代初頭の川西町の概況

	梅戸村	吐田村	唐院村	下永村	保田村	結崎村
戸数	66戸	157	153	176	104	215
人口	332人	760	792	801	523	1,280
寺院	1寺	3	3	5	2	9
人力車	—	6輛	3	—	—	—
荷車	9輛	4	10	4	2	3
米	185石	637.403	1,333.73	709.22	570	1,704.05
糯米	20石	80.58	44.2	105.1	42	49.8
麦	—	166.58石	—	153	—	—
小麦	4.3石	26.25	17.53	46.01	3	94.85
裸麦	40石	—	76.8	—	50	364.3
甘藷	—	—	1,620貫目	—	—	7,425
大豆	4石	39.233	15.2	8.2	4	16.83
蚕豆	—	10.1石	—	63.1	—	120
実綿	5,500斤	—	12,000	—	3,000	34,663
菜種	21石	20.25	160.3	89	76	125.7
草綿	—	18,060斤	—	18,515	—	—
蘭	140貫目	153	700	—	1,500	1,200
薩摩芋	—	—	—	1,515貫目	—	—
白木綿	—	—	12,000匹	—	—	8,000
茶	—	—	—	—	—	1,650斤
清酒	—	—	—	—	—	231,846石
油	—	—	—	—	—	1,050石

出所：川井景一編『大和国町村誌』名著出版、1985より筆者作成。

二月三十一日調 市街名邑及町村二百戸以上戸口表』には、式下郡の町村二百戸以上戸口として結崎村(本籍人口1,340人、現住人口1,329人)だけが記録されており、結崎村が明治前期の式下郡における中心集落であったことがうかがえる。1881、2(明治14、15)年頃の調査結果をまとめた『大和国町村誌』、1891(明治24年)を整理すると、川西町域の概況は次表に示される。

1880年代初頭の川西町域における水田は339.5町歩、畑は100.3町歩、宅地は28.4町歩であり、水田率は77%であった。唐院村と保田村では水田率が80%を超え、吐田村では水田率が70%を下回っていた。

上表から、幕末期の開港を契機に衰退していったとされる大和国の綿作が、奈良盆地中央部では、明治前期まで盛んであったことが確認できる。1880年代初頭の川西町域における実綿の収穫量は55,163貫に達しており、結崎村や唐院村では白木綿の織り立ても盛んであった。『奈良県統計書』によれば、1897(明治30)年の磯城郡全域における実綿の収穫量は、6,653貫に減少した。

一方、1880年代初頭の川西町域における菜種の収穫量は492.25石に達しており、結崎村には1,050

石の油を絞る絞油業者、片山太兵衛も確認できる。『奈良県統計書』によれば、輸入石油の普及とともに、式下郡全域で1887(明治20)年に2,257石あった菜種の収穫量が、1892(明治25)年に972石に減少した。

1880年代初頭の川西町域における藺草の収穫量は3,693貫目に達した。藺草は灯芯に加工された。『川西村史』、1970によれば、灯心引は女性の副業で、藺草を乾燥させて、中芯を引出し、藺草1貫につき100匁の灯芯ができた。『川西町史 本文

編』, 2004 によれば, 石油ランプや電灯の普及にとも
ない, 灯芯の需要が減少したため, 19 世紀末までに

磯城郡における蕎麦の作付面積は減少した。(川口
洋)

川西町における学校統廃合の流れ

	川西町立川西小学校	組合立式下中学校
明治 7	結崎小学校、唐院小学校開校	
23	結崎尋常小学校、唐院尋常小学校と改称	
昭和 9	両校に高等科を併置、式下高等小学校を廃止	
16	川西村立結崎国民学校、唐院国民学校と改称	
22	川西村立結崎小学校、唐院小学校と改称	結崎小学校内に川西中学校併置 三宅村立三宅中学校と合併し、 組合立式下中学校 1) として開校 設置者呼称を変更 2) 町制施行により改称 3) 設置条例により現校名 4) に改称
24		
47		
50	川西町立結崎小学校、唐院小学校と改称	
57		
平成 21	両校を合併し、川西町立川西小学校となる	

1) 奈良県磯城郡川西村外一ヶ村中学校組合立式下中学校

2) 奈良県磯城郡川西村三宅村中学校組合立式下中学校

3) 奈良県磯城郡川西町三宅町中学校組合立式下中学校

4) 奈良県磯城郡川西町三宅町式下中学校組合立式下中学校

〔出所〕川西町史編集委員会編『川西町史 本文編』川西町、2004 などにより筆者作成。

〔学校統廃合〕

現在、川西町には町立の川西幼稚園(昭和 29 年 4 月開園)と川西小学校(以下、小学校は〇〇小と略す)、そして隣接する三宅町と共同で運営する組合立の式下中学校(以下、中学校は〇〇中と略す)がある。町内に高等学校はない。ここでは同町の教育の主体を担ってきた川西小と式下中の沿革をまとめ、学校統廃合の軌跡をたどる(年表)。

年表を見ると、まず、川西小の前身は結崎小と唐院小にあることがわかる。ともに明治7年(1874)の創立で、開校 135 周年にあたる平成 21 年(2009)に両校が合併して現在の川西小となった。校地は旧結崎小の場所にあり、形式上は唐院小が結崎小に併合された恰好である。このように、川西小は全国でも有数の古い歴史を持つ小学校だが、少子化の波の中、学校統廃合によって誕生した新しい学校ともいえる。一方、式下中の前身は、昭和 22 年(1947)、戦後の学制改革で結崎小内に併置される形で川西

中が、南に隣接する三宅村立三宅小内に併置される形で三宅中がそれぞれ開校したのを嚆矢とする。2年後の昭和 24 年(1949)、両校が統合して式下中(式下は旧郡名。式下中の名は戦前の式下高等小学校に由来。同校は昭和9年に廃止された。年表参照)となった。校地は川西村と三宅村の境界近く、川西村結崎地籍に新設された。このように、式下中は二つの地方公共団体が共同で運営する中学校であるため、「組合立」の形をとっている。設置者は川西町が筆頭者になっているが、文字どおり川西・三宅両町が共同で運営する学校である。

以上のように、式下中への統廃合の歴史はやや古く、川西小へのそれは新しい。川西町は人口 8,704 人、面積 5.9k m²、三宅町は人口 7,013 人、面積 4.1k m²(いずれも 2017 年4月1日現在。両町のホームページによる)と、両町は小規模な自治体同士だが、それが式下中の共同運営方式を早い時点で採用させた要因といえよう。これは年表の注にもあるように、おそろしく長い学校名を生む背景ともなっ

いる。一方で、ともに由緒ある結崎小と唐院小の統合は、近年の少子化の流れを受けたものである。今後は全国で同様のケースが増えていくものと予想される。(戸井田克己)

[産業立地]

全国的な主要高速道路網から外れている奈良県は、工業立地の面では不利な地域ともいえる。こうしたこともあり、奈良県では積極的な工場誘致を行ってきた。西名阪自動車道が1969年に開通したことも工場進出を後押しし、唐院(とういん)工業団地(1966年)、結崎(ゆうざき)工業団地(1973年)など比較的大規模な工業団地が形成されるようになった。

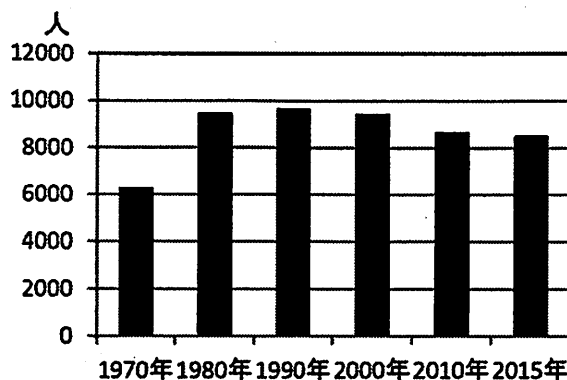
一方、川西町の地場産業として、貝ボタン産業がある。貝ボタン産業は、明治中期にドイツから神戸に伝わり、その後奈良を含めた近畿地方に広がったという。バブル崩壊後の低価格志向にともなう合成樹脂製ボタンの普及などにより、戦後(1950年代)の全盛期に比べると生産者数は減少している。とはいえ、現在においても全国トップシェアを誇る川西町を代表する産業であり、町内西部の唐院(とういん)地区、保田(ほた)地区において生産が行われている。(稲垣 稜)

[住宅地開発]

川西町の人口増加は、大阪大都市圏の外延的拡大とともにすすんできた。大阪大都市圏における住宅需要の増大にともない、ベッドタウン化の波は1970年前後に川西町にも到達した。川西町の人口推移の図をみても明らかなように、1970年から1980年にかけての人口増加は著しい。

川西町内では、主に結崎(ゆうざき)駅の西側において、民間による一戸建て住宅地開発がすすめられた。これらの住宅地には、図に示すように地区計画

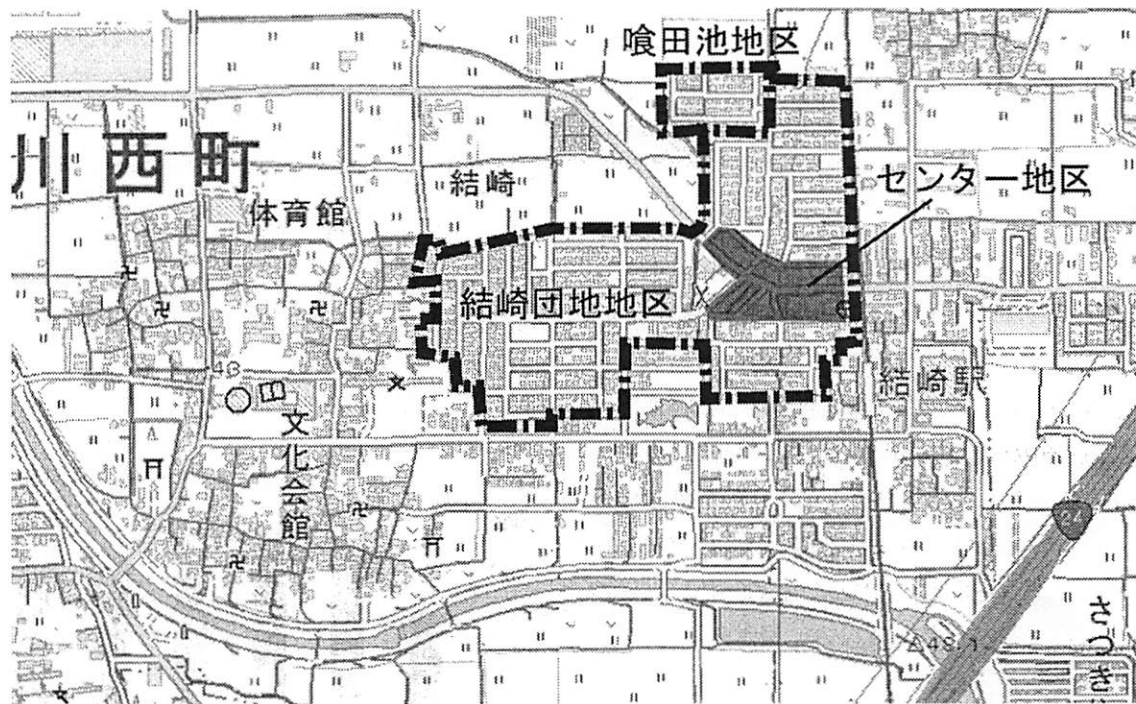
が導入されている。このうち「結崎団地地区」では、地区内を独立住宅地区とセンター地区に区分し、前者では「低層でゆとりと潤いのある住宅地として、建築物の用途混在及び敷地の細分化等を制限し、良好な住環境の維持、保全を図り」、後者では「独立住宅地区との調和を図り、地区住民の日常生活の利便性を考慮した、小規模店舗等を中心とした地区として、維持、育成を図る」としている。つまり、住環境の保全と生活環境の向上を目指した計画といえる。



川西町の人口推移
(国勢調査をもとに作成)

1970年代の大幅な人口増加とは対比的に、1980年代に入ると人口増加はおさまりをみせる。そして2000年代に入ってから人口減少を示すようになる。大阪大都市圏拡大の影響はほぼなくなったといえる。

川西町常住者の通勤先を示した表をみると、1970年から1980年にかけて、大阪市への通勤率が大幅に上昇している。先にみた1970年代の人口増加がベッドタウン化によるものであったことを裏付けている。しかし、その後は大阪市への通勤率は低下し、1990年代以降は大阪市への通勤者実数も減少するようになった。人口変化のみならず、通勤流動の面でも大阪市とのつながりが弱まりつつあるといえる。(稲垣 稜)



地理院地図、川西町地区計画図をもとに作成。

川西町における地区計画

川西町常住者の通勤先（実数）

	1970年	1980年	1990年	2000年	2010年
常住就業者	3003	3930	4345	4343	4195
自宅	1437	1070	809	544	390
川西町内（自宅外）	437	643	820	804	706
奈良県内（川西町除く）	664	1278	1731	2064	2210
大阪市	319	648	692	587	391
大阪府（大阪市除く）	126	237	197	220	238
その他	20	54	96	124	180

国勢調査をもとに作成

川西町常住者の通勤先（%）

	1970年	1980年	1990年	2000年	2010年
自宅	47.9	27.2	18.6	12.5	9.3
川西町内（自宅外）	14.6	16.4	18.9	18.5	16.8
奈良県内（川西町除く）	22.1	32.5	39.8	47.5	52.7
大阪市	10.6	16.5	15.9	13.5	9.3
大阪府（大阪市除く）	4.2	6.0	4.5	5.1	5.7
その他	0.7	1.4	2.2	2.9	4.3

国勢調査をもとに作成

入会のご案内

奈良地理学会では新しい会員の入会をお待ちしております。入会資格等の制限はございません。本会の事業内容などについて詳しくお知りになりたい方は、表紙連絡先の事務局までお問い合わせください。「入会案内」も用意しております。

また、年会費 1,000 円を郵便局より

郵便振替口座（加入者名：奈良地理学会、番号：00980-8-75041）

にご入金いただければ、そのまま入会申込みとして受付けさせていただきます。

● 現会員の皆様には、お知り合いの方などにお勧めいただきますよう、お願いいたします。

A

地図上のマークの説明



お手洗い



コンビニ

西名阪自動車道

曾我川・飛鳥川
保田浄化施設

6 光林寺

六県神社

5 富貴寺

0 400m



4 比売久波神社

Honda Cars
磯城

唐院

南都銀行

川西町
唐院運動公園

川西町
れあいセンター

唐院

3 鳥の山古墳

川西町いんき
子どもセンター
梅戸体育館

西光寺

川西町西
大権文化センター

浄徳寺

西教寺

2 月系井神社

川西町役場

弓仲理器

法満寺

川西幼稚園

川西町立中央体育館

JAならけん川西

結崎工業団地

結崎工業団地

川西町水道部

西名阪自動車道

太子道

1 面塚

川西小

チューリップなど
季節の花がいっぱい

結崎

近鉄橿原線

南都銀行

大和書店

奈良中央
信用金庫

至石見

至大和西大寺

ファミリー公園前

川西文化会館

ヤマザキ
ショップ

正念寺

結崎

結崎

結崎

結崎

結崎

結崎

結崎

結崎

川西小

ヤマザキ
ショップ

正念寺

結崎

結崎

結崎

結崎

結崎

結崎

結崎

結崎

川西小

ヤマザキ
ショップ

正念寺

結崎

結崎

結崎

結崎

結崎

結崎

結崎

結崎

川西小

ヤマザキ
ショップ

正念寺

結崎

結崎

結崎

結崎

結崎

結崎

結崎

結崎

至大和西大寺

ファミリー公園前

まほろば健康パーク
(浄化センター公園)

奈良県浄化センター

→P21



野神(西城) →P19

念仏寺

桜がたくさん
咲くよ

ぬくもりの郷
結崎ネプカ
実証ほ場

春日神社

徳正寺

西城公民館

称名寺

近鉄橿原線

南都銀行

大和書店

奈良中央
信用金庫

至石見

至大和西大寺

ファミリー公園前

ちょっと足を延ばして
まほろば健康パーク
にも行ってみてね!



キョウ(野神)

八幡神社

白米寺(康寺)

野神(東城) →P19

結崎

結崎

結崎

結崎

結崎

結崎

結崎

結崎

結崎

結崎

結崎

結崎

結崎

結崎

結崎

結崎

結崎